



家庭の中の事故に注意

子どもの「不慮の事故」は「予防可能な傷害」

子どもの年齢層別の死因順位は、2000年代までは「不慮の事故」が第1位でした。近年、子どもの「事故予防」への関心の高まりもあり、子どもの「不慮の事故死」の順位が下がっていますが、主な死亡原因であることは変わりません。子どもの「不慮の事故死」は天災・自然災害以外は「傷害による死亡」です。本来、「Accident (事故)」とは予測不能な事象によるもので、「傷害」は「Injury (傷害)：予防可能な日常的な事象によるもの」と定義されます。子どもの「事故予防」とは、「予防可能な傷害」の減少対策のことで、予防することが出来るのです。日頃からの取組が重要です。

事故(傷害)が起こる場所は家庭内が多い

石川県では「こどもセーフティ事故発生動向調査」を行なって、県内の10医療機関を定点として、乳幼児の事故の発生状況や原因の実態を調査収集、予防啓発をしてきました。平成22年の調査では、乳幼児の事故(傷害)は、①曜日は土・日に多い、②時刻は夕方から夜にかけて多い、③年齢は1歳が最も多く、次いで2歳、以後年齢と共に減少、④起こる場所は家庭内、特に居間で多い、⑤原因としては落ちる、転ぶが多く、⑥診断としては擦過傷、捻挫、打撲が多い、⑦軽症がほとんどだが、骨折や頭蓋内損傷などの重症もある、⑧0歳時では、転落のほか、やけどや誤飲が目立つことなどがわかりました。